



コミュニティ だより

あけぼの

平成 22 年 7 月 1 日現在	
人 口	15,312人
男	7,600人
女	7,712人
世帯数	5,216戸

おじいちゃんに聞いた

「ろくごう」のはなし



ねえ おじいちゃん、ここの地区はなぜ「ろくごう」というの？



それはね、今から120年ほど前、明治時代だね。その頃の小さな「東光寺村」「岸村」「阿知ヶ谷村」「道悦島村」「細島村」と「御請新田」の六つの村が集まって、この地域に「六合村」ができたんだよ。

そうしてね、昭和30年、今から50年くらい前だね、むかしの島田市に合併されて六合村は無くなったんだよ。

だけどね、今でも、大きな地域のまとまりとして六合地区っていう呼び名が残っているんだよ。



へえー！ そうなのか、だから六つ合わさって書くんだね。じゃあ どのくらいの人が住んでるの？



今、六合地区に住んでる人はね、約15,000人。家族(世帯)数は約5,200戸。島田市の約15%が六合に住んでいるんだね。昭和40年ころから新しい家ができて人口が増え続けているんだよ。今でも人口が増えている地域は島田の中では少ないんだよ。島田市に合併された時は5,500人だったから、55年の間で約3倍になってるね。



それからね、『岸』、『谷』、『島』とかが付いた地名があるのなぜなの？



それはね昔の大井川の流れに関係してるんだよ。東光寺、岸など高いところ以外は大井川は「暴れ河」といって山のそばまで流れていた頃があったんだね。その頃阿知ヶ谷は谷、岸は川の岸、道悦島や細島はちょっとした島だったんだろうね。だから遺跡は比較的標高の高いところからしか出ていないんだよ。

そしてね、この地域の地下はね、大きな石から小さな石の交じった砂利が多くてね、地震にも強い土地になっているようだよ。



うん、だいぶわかってきたよ。で、これから六合はどうなるの？



コミュニティって言葉聞いたことあるよね、お年寄りから小さな子供までのみんなが協力して緑のたくさんある楽しく住みやすい町を目指していくんだよ。

ロクティもでき、六合駅のエレベーターは北口と南口にもできるんだよ。

道路もね、東町の広い20m道路も西に向かってつながっていくし、初倉の方からはね、新しい橋がかかって東光寺に向かう新しい道も計画されているんだよ。

おまえたちが大きくなる頃にはもっともって緑のあふれた住みやすい六合になると良いね。そのためには、もっともって色々なことを勉強して行って欲しいね。

会長あいさつ

鈴木照男

伝統ある六合コミュニティの会長を務めさせて頂くことになりました。浅学で何の知識もない自分が務まるのかと自問しているところです。

二年前にアメリカで発生したリーマンショックによる大不況の波が日本に押し寄せ百年に一度という大不況に見舞われ、明るい話題が少なくなっている近年、こんな時こそ地域のまとまりが必要ではないでしょうか。

六合コミュニティが発足して三十九年になります。当時この六合は世帯数千七百戸、人口七千人ほどと聞いております。

それが現在では世帯数五千二百戸、人口一万五千三百人と大世帯になりました。しかし人口の増加とは裏腹に、生活環境の変化、価値観の違いなどで隣近所の付き合いも薄らいで来ているのではないかと感じています。

「私達の住みよい街づくりのために」を合い言葉に多くの事業を計画し、多くの人が集う親しみやすいコミュニティ活動を展開していこうと考えております。皆様の御指導御鞭撻をお願い致します。

文化部

部長 齋藤博夫

本年度、文化部長をやらせていただくことになりました道悦の齋藤です。

何もわからずに引き受けましたので、皆様に御迷惑をおかけするかもしれませんが、役員・部員の方の協力を得て一年間頑張りたいと思います。

今まで、文化祭を経験したことのない私ですが、文化祭を通して地域の皆様により良い交流の場になれば幸いです。その為に一生懸命努力してまいりますので、御協力よろしくお願い致します。

消防治安部

部長 河合 修

日頃は、消防治安部（消防団）の活動にご協力頂き誠に有り難うございます。

消防治安部の活動は、そのまま地元消防団活動の一部となります。全団員が一丸となり関係各位の皆様と連携を取りながら住みよい街づくりのために努力しております。

主な活動は、地元神社等の祭典警備や、冬季の夜間警戒にな

ります。この夜間警戒では、小学四・五・六年生を対象に「子供消防団」と称し、消防車に乗り体験学習を毎年行っております。

また、月に二回の消防車点検の際には、六合地区に配備された移動式投光器の点検も行っております。その他、火災や自然災害には、昼夜を問わず出動し、消防署と連携し六合地区の安全確保に努めております。

消防治安部は他の専門部とは異なり、昼夜を問わない日々の活動を行っております。今後とも地域の皆様方には、地域防災の一役として、御理解と御協力をよろしくお願い致します。

体育振興部

部長 森下 甲子雄

本年度、体育振興部長の大役を拝命しました森下です。

六合コミュニティの運営に参加することは初めての事で困惑する事ばかりですが、役員の方々の御指導と部員の皆様の御協力を頼りに活動を行いたいと思います。

本年度も六月のソフトバレー大会を皮切りに、七月にグランドゴルフ、翌年の二月にはインディアアカ大会を計画しております。スポーツを通して地域の皆様の親睦と交流を深めることに少しでも助力できればと思います。多様な時代で皆様お忙しいと

交通安全部

部長 齋藤泰司

本年度は、阿知ヶ谷区が交通安全部長の大役を仰せつかりました、齋藤です。

日頃交通安全につきましては、六合地域の皆様方は十分注意されておられると思います。交通安全部員一同、交通事故の無い、安全で安心な住みよい街づくりの為、地域の皆様の温かい御支援、御協力をお願い致します。交通安全部といたしましては、六合コミュニティの年間計画イベントにおいて六合地域の交通安全に努めます。

明るい街づくりと楽しい思い出づくりを交通安全部員一同、一生懸命お手伝いを致しますので、よろしくお願い致します。

社会福祉部

部長 鈴木光治

本年度は社会福祉部を担当させて頂いたさき鈴木です。

二十二年度事業につきましては、前年度四役の方と本年度会長さん知識経験者からの説明を受け、本年度の部長さんの同意を得て例年通りの事業を行うこととなりました。

一戸一品抛出運動（夏祭りバザー）、戦没者慰霊祭を主な事業として行っております。

一戸一品抛出による「夏祭りバザー」は、地区の皆様が楽しみにされているとのことですので、多数の抛出をお願いします。

戦没者慰霊祭につきましては、亡くなられた方々の御冥福をお祈りすると共に、感謝をこめた慰霊祭を行いたいと思っております。また、この日を機に平和な現在を再認識いただければと思います。



広報部

部長 大石宏一

今年度は基本に戻って、「あけぼの」で六合を知ろうをテーマに編集したいと思います。

子 六合はなぜ「六」に「合」って言うの？

親 六つの村が集まってできたんだよ。

子 六つの村の名前、由は？

六合の名前の由来から始まって、家族の団樂のテーマを提供したいと考えています。

子供に伝えたい史跡、文化、心。

頑張っている人↓サークル活動、スポーツ少年団、地域の匠是非、記事をテーマに親子の会話を始めてみませんか。

レクリエーション部

部長 鈴木康則

本年度、レクリエーション部の部長を務めさせていただく事になりました鈴木です。

これまで、六合コミュニティ活動への参加経験がなく、何も分からないまま引き受けてしまいました。すべての事業は部員の方々の力添えがあったからこそできる事だと思えますので、皆様の御協力をよろしくお願い致します。

主な事業

- 一、夏祭り（進行等）
 - 二、親子マス釣り大会開催
 - 三、その他 防犯パトロール
- 緑道除草作業参加

女性部

部長 成岡由利子

四月七日、二十四人の役員と共に女性部の活動の第一歩に踏み出しました。

ボランティア活動の「雑巾・タオル・ウエス集め運動」に取り組む、皆様の善意をたくさん頂くことができました。ありがとうございました。

これからは夏祭り・敬老会・入学祝いの会と事業が続いていきますが、前年度の提坂部長から引き継いだ「思いやりの心で活動に向かい、楽しい一年に」という言葉を胸に行事を進めていくつもりです。

今後共、地域の皆様の御支援、御協力をお願い致します。

老人部

部長 成岡五一

今回部長の大役を引き継ぐ事になり、高齢の私と心許なく思っております。幸いにも前任役員の皆様が多く留任しており、誠に心強く先輩諸兄が育てた偉業を微力ながらも皆様方と共に受け継いでいきたいと思えます。



老人部の事業も他方面から多大の御援助を頂いて、各行事も昨年同様に楽しく笑顔一杯で進めたいと願っています。何分にも入会者が少ない現状で苦労している状態です。地域の皆様方の御理解を頂いて、第二の人生を共に楽しく健康で送るように、大勢の御参加を歓迎しております。

老人部も次から次と花を咲かせていくことを願っております。

ほたるの里

コンサート

平成二十二年六月十二日（土）の夕刻、東光寺本堂に「ぼー、ぼー」としたほたるの灯りを誘うかのようなフルートの幽玄の宴（ほたるの里コンサート）が開かれました。

今回はリバイティーフルートアンサンブルさん（大石さん、伊藤さん、清水さん）を招いてのフルート三重奏でした。

演奏は「ほたる↓愛↓宇宙（木星）」と世界を広げ、



「浜辺の歌」を観客みんなで歌い、アンコールの「アメージンググレイス（驚くばかりの主の恵み）」と進みました。

ほたるはこの時期、「求愛のために舞を披露し、飛ぶことで四十日の命も十日、十四日なる」という住職のお話はこの演奏とのアンサンブルでほたる鑑賞を感慨深いものになりました。

ほたるが舞う住みよい環境、街づくりを実感した素晴らしい夜でした。





① 日吉神社 (ひよしじんじゃ)

天台宗・東光寺守護神。
無形文化財の猿舞。



② 天満天神社 (てんまんてんじんじゃ)

天神社と栃山地域の氏神、西宮社と合祀される。



③ 浅間神社 (せんげんじんじゃ)

大井明神・浅間社・諏訪社・左口司社と大井神社との合祀。

え 竜江院



う 大日堂 (だいにちどう)

本尊・大日如来。羊・申の守り本尊（縁日は2月・8月）。仁王像が建立。



え 竜江院 (りゅうこういん)

曹洞宗。
防火の火祭り。(12月25日)

至 藤枝

国道1号線



⑤ 八幡神社 (はちまんじんじゃ)

細島地域の氏神。
義人、増田五郎右衛門の義人碑。



か 全仲寺 (ぜんちゅうじ)

曹洞宗。初倉・医王寺の末寺。
増田五郎右衛門の墓がある。

か 全仲寺

⑤ 八幡神社

き 官養院



き 官養院 (かんよういん)

曹洞宗。旧名・明泉寺。開山の官養和尚の名から改名。

六合東小
六合第二保育園

桜並木

● 神社 ● 仏閣



あ 東光寺 (とうこうじ)

天台宗。足利氏・今川氏・武田氏の古文書が所蔵される。



い 香橋寺 (こうきつじ)

曹洞宗。本堂裏、古木の大雨天は県・天然記念物



4 ハ幡宮 (はちまんぐう)

道悦島地域の氏神。英霊を祀る忠魂碑。



お 普門寺 (ふもんじ)

曹洞宗。静居寺前から移る。第一保育園が借地。

1 日吉神社

東光寺 **あ**

六合めぐり

国1バイパス

大日堂 **え**

3 浅間神社

天満天神社 **2**

香橋寺 **い**

島田工業高校

至 島田市街

六合幼稚園

六合駅

東海道本線

4 八幡宮

六合中

お 普門寺

みんなで行こう
**六合コミュニティ
夏祭り**
平成22年8月8日(日) 午後2時~

ロクティ

六合小

中島公園

六合第一保育園

月夜田公園

コミュニティ緑道

大井川

六合中学校

緑道草刈作業が 始まりました。

六合中学校では、全校VS活動の一環として地域活動を実践しています。

「緑道」と「全校VS活動」の「コラボ

六合中学校 暮林 邦和

本校に「全校VS活動」と呼んでいる活動があります。「V」はボランティアのV、「S」はサービスのSです。活動の内容を一言で言えば『奉仕の気持ちを持って地域の清掃を行う活動』と言えるでしょう。歴史は古く、昭和四十七年に福祉社会教育の研究指定を受けたことがきっかけで、昭和四十九年から本格的に始まり現在に至りますので、約四十年の歴史があります。親子二代でこの活動に取り組んだという声も聞きます。

学校の内外であったり、外に出たりと、どこを掃除するかは年によって違いましたが、私が赴任した三年前から、掃除の対象を「地域」と明確にし、「緑道」を必ず入れるようになりました。理由は至って簡単で、六合中は地域あつての学校であること、そして、私が「地域」で真つ先に浮かんだのが「緑道」だったからでした。

「緑道」の歴史もかなり古く、昭和五十三年の栃山川の河川整備に伴って

できたと聞きます。さすがと感心するのは、六合コミュニティの活動として自主的に、そして草花の世話を徐々に行つて今日の景観を呈していることです。地域住民の手作りということ、これまで数々の表彰を受けています。(平成六年、これまでの表彰記録を刻んだ記念碑が緑道わきにできました。改めてご覧になってはいかがでしょうか。)



伝統ある六合中の「全校VS活動」と六合住民の憩いの場である「緑道」のコラボは、我ながら「最」妙案だと自負しております。ボランティアの真髓は「自主的」かどうかですが、最初から意欲的、自主的に取り組むことができる人はそうはいないと思います。むしろ強制的にいやいややらされたという思いでやる生徒も多いでしょう。しかし、私はやるのが大事だと考えます。やれば記憶に残ります。例えば、生徒がもつと大人になって、彼女と一緒に緑道べりをデートしたとき、自分がやった「全校VS活動」を思い出し、彼女に自慢すれば、お互い良い雰囲気になるでしょう。そして、その後は…♡。そのペアは「人の役に立つこと」について考えるきっかけを得たとは思いませんか。私流論法で言えば、その時か後になってからは別にして、ボランティアというものはその人や周りの人をハッピーにする力があると思います。奉仕の精神、地域を愛する心を六中生に芽生えさせたいと願つて、今年も「緑道」を中心に「全校VS活動」を行います。



六合小学校

伝えていよよ、
伝統文化。

六合小学校では、和文
化教育の教材として猿舞
を学んでいます。

東光寺の「猿舞」

東光寺の猿舞の歴史は古く「太平記」という書物に京都で猿踊りが行われたとの記述があるそうです。今から約六百年以上前の話です。

東光寺の猿舞もこの流れからきたとも言われ古くから続いてきたものと思われています。

日吉神社では猿は神の使いとされ各地で猿にまつわる芸能が行われていたようですが現在、全国にある三千八百の日吉神社のなかで猿舞が残っているのは、ここ東光寺のみといわれています。

昭和五十二年に静岡県無形民俗文化財の指定を受けております。

東光寺の猿舞の舞子は最初に小学校一年生になる子供から選ばれます。そして一度決まれば、六年間踊ることになります。一年生から三年生まで子猿を演じ、四年生になると親猿を四年、五年、六年と演じます。子猿が親猿になるその年にまた次の子猿が一年生から選ばれます。三年ごとに一人ずつ交代していきます。地元では親猿、子猿と呼びますが、雄・雌の夫婦猿と言われています。

六合小学校ではこの伝統文化を和文
化教育の教材として学んでいるよ。



神輿渡卸



猿舞

地域に伝わる

伝統文化猿舞と子どもたち

六合小学校 西村正巳

本校では、和文文化教育に取り組んでいます。日本文化の心を知り、他を思いやる心、感動する心などの豊かな心を育てることがねらいです。クラブ活動では和太鼓を始めとして大正琴や日本舞踊、三味線などに親しみ、授業では日本の伝統文化である茶の湯や和菓子作り、座禅や生け花や和食作り等の体験に取り組んでいます。その中で、猿舞は四年生が地域に目を向けて学ぶ教材です。



猿舞を生徒が見物

一説には六百年以上も前の室町時代から東光寺に伝わっているとされるこの猿舞は、全国に例のない貴重なものであり、県の無形民俗文化財に指定されています。子どもたちは、四月の祭典の猿舞奉納を見学し、調べてみたい自分の課題を作ります。ある子は雄猿と雌猿の面の違いや意味に興味をもったり、またある子は自分も踊ってみたい、舞を調べてみたいと思ったり



雄猿・雌猿・天狗の面の説明



DVDを見ながら、舞の練習

します。後日、保存会の方を学校にお招きし、面や神楽鈴や御幣などを見せていただき、質問に答えていただいたりします。授業ではインターネットで検索したり、猿舞を踊っているDVDを見ながら一生懸命に舞を練習したりしていました。

私たちは、子どもたちに郷土に伝わる伝統文化猿舞の素晴らしさを体感し、そのよさを継承・発展させようとする願いをもつてくれたらと思っています。昨年度、学習発表会「花祭り」で猿舞の踊りを披露した大石絢子さんは、次のように話しています。

「猿舞を踊ってみると、重たくて大きい幣束（はにばく）を手に持ち腰を落としたまま跳び上がる動きが大変でした。でも、その跳びはねて踊るところがとても面白かったです。

猿舞が東光寺だけじゃないのを知って淋しく感じました。だから、いつまでも受け継がれていってほしいという気持ちを入れて踊りました。これから六合東光寺の猿舞をみんなに伝えて大事に受け継いでいきたいです。」

六合東小学校

受け継ぐ伝統 五郎祭

六合東小学校は、増田五郎右衛門の義拳を受け継ぐ学習活動を続けています。

これからも受け継いでいく五郎祭

六合東小学校長 松本俊一

増田五郎右衛門の義拳を受け継ぐ学習活動は、東小では三年生の後半に調べ劇形式にまとめ、四年生の七月末に八幡神社にて地域の皆様に披露してきました。



当時使用した井戸や墓地・義人碑を巡り学習している。また、ご子孫の増田幸雄様のお話もうかがい、自分の命を犠牲にして村民を救った勇氣について考えてきた。この感動を劇にして、五郎祭にお見えの皆様に見てもらいたい、大きな拍手をいただいた。

昨年度頑張った取り組みだ現五年生に話を聞くと、多くのお客様の前で演じるため、舞台の中央で堂々とした大きな演技をすること、声も後ろまで届くように何度も練習したそうだ。また、昔の台詞回しにも気をつけるし、時代劇のため殿様やお姫様の衣装は手に入りやすいが、お百姓の仕事着は残っておらず準備に苦労すると話してくれた。でも、頑張ったご褒美に大きな拍手をもらうので、すごくやり甲斐を感じることできたそうだ。是非、今年も後輩の四年生が、増田五郎右衛門の尊い行動を語り継いでほしいと話してくれた。

昨年頑張った子らが、次の後輩への熱い思いを語ることを聞き、忙しいけど今年も頑張ってもらおうと決意した次第です。

義人『増田五郎右衛門』

義人Ⅱわが身の利害を顧みず他人の為に正しいと思ったことをやり抜く人。

増田五郎右衛門は、一七七七年田中藩志太郡細島村に生まれ、農業をやりながら治水工事の監督なども行い庄屋を務めていた。

一八一六年にこの地方を暴風雨が襲い、お米がほとんどとれない状況になってしまった。しかも三年続きの凶作で、年貢が納められず大変困り志太郡の代表者たちで田中藩に年貢の減免をお願いをしたが聞き入れてもらえなかった。そこで五郎右衛門らの代表者は田中城近く天神山に村人達を集め、強訴(集団の訴え)を計画し年貢減免の嘆願書を役人に渡した。

藩主「本多豊前守正意」は、事の重大さを知り年貢減免を決めた。田中藩はこの騒動の首謀者を探索し農民を厳しく取り

調べに着手した。五郎右衛門は、農民が罪を被ってはならないと考え城に向き、自分一人が仕組んだとして罪を一身にかぶろうとした。村人の寛大な処分の願いに反し、五郎右衛門は獄中三年の後、一八一八年六月二十八日藤枝源昌寺原にて打ち首の刑に処され同時に家屋敷も焼き払われた。村人は五右衛門の遺骸をもらい受け密かに『義山玄忠上座』の法号を送り葬った。

処刑日の旧暦六月二十八日は農作業を休み菩提を弔ってきた。

その後も、八幡神社の境内に義人碑を建立し『五郎祭』として盛大に供養している。太陽暦に変わっている現在は七月二十八日である。



- ①生家の跡地。場所はネスレ工場の西側。
- ②東町コミュニティ委員会が設立した案内看板。
- ③家屋敷は焼き払われたが井戸はそのままである。
- ④八幡神社境内の義人碑。
- ⑤全仲寺にあるお墓。
- ⑥『五郎祭』の一コマ。少年五郎太鼓。